

Fuji TV Report

株主の皆さまへ 第67期 中間報告書 平成19年4月1日から平成19年9月30日まで

ガリレオ

ドラマ「ガリレオ」月曜夜9時放送中（全10話）

東野圭吾の人気推理小説「探偵ガリレオ」シリーズ初のドラマ化です！

ドラマ出演は4年半ぶりという福山雅治扮する天才物理学者（通称：ガリレオ）が、柴咲コウ演じる女性刑事 内海薫と共に、常識を超えた怪奇事件に科学で挑む本格派ミステリーです。大人も楽しめる質の高い内容が好評で、毎回高い視聴率を記録しています。

2008年秋にはドラマと同じキャストによる映画「容疑者Xの献身」が公開予定ですので、そちらもお楽しみに！



Contents

第67期 中間報告書

- 2 Top Message
ごあいさつ
- 3 Top Interview
トップが語るフジテレビ
- 6 Topics
特集
- 7 Fuji TV Outline
フジテレビアウトライン
- 11 Consolidated Financial Statements
中間連結財務諸表
- 13 Non-Consolidated Financial Statements
中間個別財務諸表
- 14 Corporate Social Responsibility Report
CSR通信
- 15 Group/Network
グループ・ネットワーク
- 16 Our Group Companies
グループ会社紹介「(株)共同テレビジョン」
- 17 Corporate Data
会社概況
- 18 Investor Information
株式情報

代表取締役会長
(Chairman & CEO)

日枝 久

代表取締役社長
(President & COO)

豊田 皓



Top Message ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当中間期における日本経済は、企業業績は改善し、設備投資も堅調に増加するなど引き続き緩やかな回復基調にありましたが、国内の消費マインドが向上せず、個人消費はほぼ横ばいに推移しました。また、企業の業況感には慎重さがみられ、広告出稿意欲が停滞し、広告市況も伸び悩んでおります。こうした環境のなか、当社は、あらゆる事業環境の変化にも対応し、持続的に成長する強靱な経営基盤の確立に取り組んでまいりました。

おかげさまでもちまして当社の番組視聴率は当中間期においても前期に引き続き視聴率トップを堅持し、3年連続して四冠王を達成することができました。ドラマ、バラエティ、情報、スポーツそして報道のすべての分野の番組で偏りなく視聴者の皆様からご支持を頂いております。当社といたしましては引き続き、報道機関として広く公共の利益に資することを使命と認識し、国民・視聴者の皆様に正しい情報を送り届けることを前提に健全で良質な娯楽を提供し、皆様の信頼に応えてまいりたいと思っております。

当中間期の連結業績につきましては、主力の放送事業では、映画・イベント・DVD販売等が好調に推移しましたが、企業の広告出稿意欲が停滞したことにより放送収入が前年実績に届かず、費用面では放送事業原価や販管費の増加もあり、増収減益となりました。また、グループ会社の通信販売事業、映像音楽事業、その他事業の業績低迷もあり、全体では、減収減益となりました。

ここ数年、ブロードバンドにおける動画配信サービスの普及などメディア環境は刻々と変化し、放送行政上の枠組みや制度変更、放送と通信のあり方の問題などについて様々な議論が活発化しております。一方では、米国のサブプライムローンの不良債権化問題を背景とした金融市場の動揺や、原油高とそれにとまなう原材料費の上昇、円高局面の影響により広告市況の先行きが不透明であるなど、当社を取り巻く事業環境は決して楽観を許されるものではありません。当社といたしましては、新設のフジテレビ湾岸スタジオが本稼働となり、当社及び当社グループの事業戦略のうえでメインエンジンであるコンテンツ力をなお一層高めてまいります。当社では、今後も、あらゆる環境の変化に即応する最強のデジタル・コンテンツ・ファクトリーとして、多様なメディアへ魅力ある良質なコンテンツを供給してまいります。引き続き、コンテンツから生まれる収益機会の拡大を図るとともに、費用コントロールをより徹底し、低迷する子会社の業績の改善を図り、当社及び当社グループの経営基盤をさらに強化し、企業価値を高めていく所存です。

ここに、平成19年度中間期の事業概況をご報告いたします。今後も株主の皆様のご期待に応えることができますよう、着実な成長をめざしてまいりますので、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年12月



Top Interview

トップが語るフジテレビ

代表取締役社長 豊田 皓

Q：フジテレビの当中間期の業況について聞かせてください。

フジテレビの番組視聴率は、おかげさまで当中間期もトップを堅持し、3年連続の「四冠王」を達成することができました。ドラマ番組では「プロポーズ大作戦」「花ざかりの君たちへ～イケメン♂パラダイス～」が高視聴率を記録したほか、土曜23時台の連続ドラマ枠の開拓に成功し、「라이어ゲーム」「ライフ」が斬新な企画で注目を集めました。また、バラエティ番組では「ネプリーグ」「はねるのトビら」「クイズ！ヘキサゴンII」などが安定的に高視聴率を獲得したほか、情報番組では「とくダネ!」「めざましテレビ」、報道番組では「FNNスーパーニュース」等の視聴率も好調を維持しました。

また、日本各地で大好評の「ドラリオン」等のイベント、「西遊記」「ゲゲゲの鬼太郎」等ヒットが続く映画、「ドラゴン

ボール」「のだめカンタービレ」等のDVD販売などその他事業も好調でした。

しかしながら、当中間期は、大変厳しい業績となりました。連結売上高は、通信販売事業の不振や映像音楽事業の売上の落ち込み等が影響し、減収となりました。営業利益、経常利益では、放送事業、放送関連事業、映像音楽事業で減益となり、通信販売事業、その他事業で営業損失となったことで、大幅な減益となりました。

Q：当中間期のフジテレビの単体業績を教えてください。

売上高は前年同期比1.7%増収の1,923億4百万円、営業利益は前年同期比61.3%減益の74億64百万円、経常利益は前年同期比57.6%減益の91億97百万円、中間純利益は前年同期比63.1%減益の56億57百万円となりました。

放送収入のうち、ネットタイムセールスについては、レギュラー番組セールスは前年を上回りましたが、単発番組セールスは前年の「ワールドカップサッカー」等に見合うものがなく、売上高は676億81百万円で前年同期比0.3%減収となりました。また、ローカルタイムセールスは、レギュラー番組セールスの減収を単発番組セールスによりカバーできず、売上高は107億92百万円で前年同期比6.1%減収となりました。スポーツセールスは、第2四半期では前年を上回りましたが、売上の大きい第1四半期で前年割れとなったことで、売上高は657億27百万円と前年同期比1.4%減収となりました。その他放送事業収入は、151億35百万円で前年同期比2.6%減収となりました。これらの結果、放送事業収入は1,593億38百万円で前年同期比1.4%減収となりました。

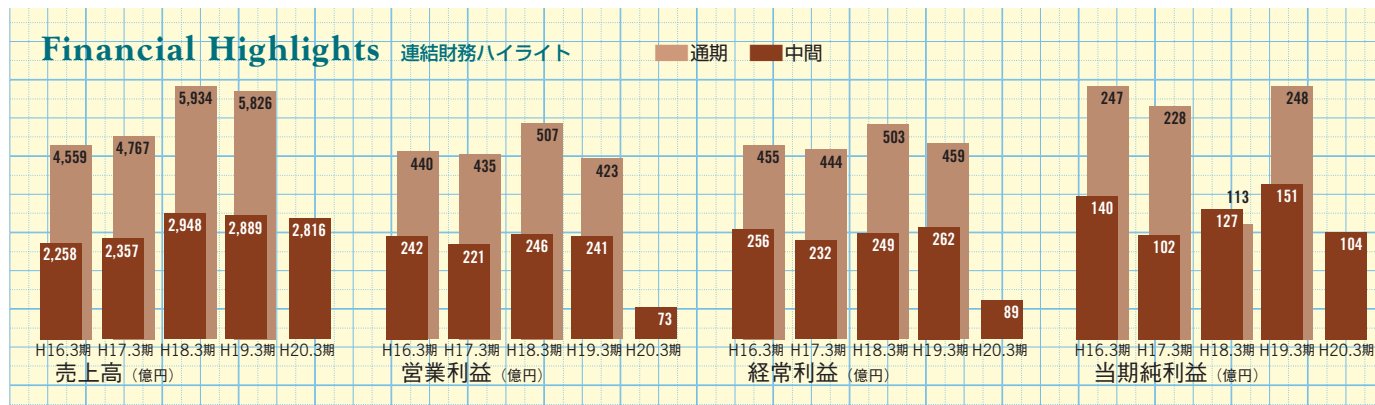
その他事業では、イベント事業において「ドラリオン」が興行、物販ともに好調に推移し、「お台場冒険王」などを併せ売上を大きく伸ばしました。また、権利ビジネスにおいては、

「ドラゴンボール」「のだめカンタービレ」「ドリフ大爆笑」などのDVD販売が好調を維持し大きな牽引力となりました。映画事業においても、「アンフェア」、4月公開の「ゲゲゲの鬼太郎」のヒットに続き、7月には「西遊記」が興行収入45億円と夏休み邦画実写映画で1位の大ヒットとなりました。この結果、その他事業収入は329億66百万円で前年同期比19.6%の大幅増収となりました。

一方、費用面では「F1日本グランプリ」が上期開催（前期は下期開催）となったこと等で放送事業原価が増加したことに加えて、9月に本稼動した新設スタジオ関連費用計上等での販管費の増加により、営業費用は前年を大きく上回りました。

Q：当中間期の連結業績を教えてください。

当中間期の連結売上高は、通信販売事業、映像音楽事業、その他事業で減収となり、前年同期比2.5%減収の2,816億97百万円となりました。営業利益につきましては、放送事業、放



送関連事業、映像音楽事業の減益に加え、通信販売事業、その他事業の営業損失計上に加わり、前年同期比69.4%減益の73億81百万円となり、経常利益は、前年同期比65.9%減益の89億38百万円となりました。中間純利益は、特別利益に投資有価証券売却益・出資金売却益が計上されたため、前年同期比31.1%減益の104億63百万円となりました。

Q：通期の業績見通し、展望はいかがですか？

当社は、11月13日に通期業績見通しの下方修正をいたしました。

まず単体の見通しについては、広告市況の先行き不透明感がある一層強まっていることから、放送収入は減収を見込んでおります。一方、その他事業では、9月に公開され興行収入80億円を突破する大ヒットとなった映画「HERO」の収入への計上や、上期に引き続き予想を上回る好調な観客動員であるイベント「ドラリオン」等があり、イベント、映画、ビデオ等を中心に当初見込みを上回り堅調に推移すると見込んでおります。引き続き費用のコントロールに努めますが、放送収入の減少を見込むことにより、通期の単体業績予想は、当初業績予想より営業利益54億円、経常利益57億円、当期純利益36億円をそれぞれ減少させ、売上高3,784億円、営業利益211億円、経常利益229億円、当期純利益130億円といたしました。

連結業績については、下期には上期に低迷した主要子会社の業績の改善を図ってまいります。放送事業の占める比率が大きいこと、またグループ会社の通信販売事業、映像音楽事業での通期見通しも中間期の実績を受け前回予想を下回ると見込ま

れるため、単体業績同様、連結業績予想を下方修正することとし、売上高5,762億円、営業利益254億円、経常利益286億円、当期純利益218億円をそれぞれ見込んでおります。

今後も当社グループの事業環境は厳しいことが予想されますが、当社事業戦略の根幹となるコンテンツ制作力は、番組視聴率や映画、イベント等その他事業の好調さを維持するメインエンジンであり、引き続き強化してまいります。新設「フジテレビ湾岸スタジオ」はドラマ、バラエティの番組制作における、まさにコンテンツ・ファクトリーとして本格的に稼働し、10月の番組視聴率はおかげさまで高い水準で月間四冠王を獲得することができました。バラエティ番組や情報番組、スポーツ番組、報道番組が底固く好調を維持していることに加えて、10月からスタートした「ガリレオ」「医龍2」をはじめとする連続ドラマが他局を圧倒する好スタートを切っております。年末年始にかけての番組ラインアップも視聴者のご期待に十分にお応えできるものと確信しております。

下期以降は、費用のコントロールと主要子会社の業績の改善に努め、いかなる事業環境の変化にも即応し、着実に成長する経営基盤を磐石にしていまいる所存です。

湾岸スタジオいよいよ始動!

平成19年9月14日、フジテレビ「湾岸スタジオ」がいよいよオープンしました!

最新鋭のスタジオが完成し、番組作りの環境が飛躍的進化を遂げた今、フジテレビの番組はますます面白くなります!!
ドラマ・バラエティーの制作担当者が「湾岸スタジオ」にかける想いとは・・・!?



スタジオは、私たち制作者にとってまさに「夢の砦」です。ドラマは、これまで渋谷、世田谷のスタジオに分散して収録を行ってきましたが、この湾岸スタジオの完成により、全てを集中して、このお台場の地で「夢」を作ってゆくことになりました。

連続ドラマを大ヒットさせ、映画、舞台へと無限の広がりを見せるフジテレビのドラマスタッフは、私が見る限り日本最強の制作集団といえます。

これからも全身全霊を込めて番組制作にあたり、この「夢の砦」を、世界中の人の注目を集める「エンタテインメント工場」にしようと呼びかけています。



大多 亮 執行役員
ドラマ制作担当局長

港 浩一 執行役員
バラエティ制作担当局長



最先端のデジタル技術と環境への配慮を併せ持った湾岸スタジオがオープンしました。どうすれば使いやすくなるか、2年以上も議論を重ねて完成した、我々の想いがいっぱい詰まったスタジオです。開放的な空間で、「めっちゃイケてるッ!」「はねるのつばら」「メントレG」「あっぱれ!

さんま新教授」「HEY! HEY! HEY!」「新堂本兄弟」「ミュージックフェア21」「新春かくし芸大会」など、フジテレビが誇る人気バラエティ・音楽番組がのびのびと制作されています。新スタジオの機能を駆使し、「笑いと感動」がいっぱい詰まった、皆様に愛される番組を、日本だけでなく世界にも発信していきたいと考えています。

湾岸スタジオに遊びにいらして下さい!!

入場無料：10:00～18:00
休館日：火曜日(祝日の場合は翌日)



湾岸ミュージアム

1階の「湾岸ミュージアム」には、日本最大の映画製作会社でもあるフジテレビが製作した数々のヒット映画の衣装や小道具、模型などを常時展示しています。

「踊る大捜査線シリーズ」からは、青島刑事・和久刑事・室井管理官の衣装や各々の小道具、湾岸署のジオラマなどが展示されています。「海猿」からは、仙崎大輔が着ていたウェットスーツ、「西遊記」からは、「なまかご一行」が立ち向かう最強の敵、金角大王・銀角大王の実物大フィギュアが撮影で使用した衣装を身に付けて展示されており、映画ファン垂涎のミュージアムとなっています。

ゆめファーム

屋上庭園「ゆめファーム」には、「北の国から 2002 遺言」に登場する産業廃棄物で作られた「拾ってきた家」のコンセプトを基に、新たにデザインして「ゆめの小屋」を誕生させました。富良野、旭川より廃屋や廃車、スキーリフトのゴンドラなどの廃材を調達して施工、また庭園には白樺の間伐材と古枕木を使用するなど、フジテレビらしいエコをテーマにした庭園プロジェクトです。屋上庭園「ゆめファーム」で、癒しのひと時をお楽しみ下さい。



Fuji TV Outline

フジテレビアウトライン

平成19年度上期（4月～9月）のフジテレビは視聴者の皆様からのあたたかいご支援をいただき、ゴールデン（19時～22時）、プライム（19時～23時）、ノンプライム（6時～19時・23時～24時）、全日（6時～24時）の4つの時間帯でいずれもトップの視聴率を獲得し、3年連続で「四冠王」となることができました。

Sports スポーツ

撮影：金子 博



F1グランプリ

中継開始から21年目を迎えた『F1 GP』では、ニューヒーロー達の熾烈なバトルを全世界から中継、中でも富士スピードウェイに移って生まれ変わった『F1日本GP』は迫力ある生中継でお伝えしました。9月の『世界柔道』ではブラジルから谷亮子選手の涙の優勝など数々のメダル獲得シーンを4夜連続ゴールデン・プライム帯で放送。また、世界各地から『K1 GP』『メジャーリーグ』『プロゴルフツアー』、さらにサッカーでは『欧州リーグ』を軸に、若き日本代表の活躍もワールドワイドに伝えました。フジテレビは常に、世界最高峰のスポーツシーンに注目しています。

Broadcasting

放送事業&放送関連事業

TV Program テレビ番組

Drama ドラマ



プロポーズ大作戦

連続ドラマでは、「プロポーズ大作戦」が平均視聴率17.5%、「イケメンブーム

を巻き起こした「花ざかりの君たちへ～イケメン♂パラダイス～」も平均17.3%と高視聴率を記録。また、土曜23時に新設された連続ドラマ枠では、「ライアーゲーム」「ライフ」が斬新な企画で注目を集めました。

単発ドラマでは、千の風ドラマスペシャル「はだしのゲン」が18.2%、20.5%と2夜連続で高視聴率をマーク。さらに、山田太一脚本の「星ひとつの夜」、二代目山下清の「裸の大将」など話題作を連発しました。

フジテレビのドラマ制作力は、ますます他を圧倒しています。

めざましテレビ



Variety

バラエティ

バラエティ番組では「ネプリーグ」「はねるのトビら」「クイズ!ヘキサゴンII」がフジテレビらしいパワーを爆発させる中、「HEY!HEY!HEY!」「SMAP×SMAP」「ザ・ベストハウス123」「とんねるずのみなさんのおかげでした」「幸せって何だっけ」「めっちゃイケてるッ!」の視聴率も依然堅調。さらに「メントレG」が23時台から昇格、1時間番組にパワーアップしてゴールデンタイムを盛り上げています。また23時台では「あいのり」「タモリのジャポニカログス」「VVV6」「スリルな夜」「僕らの音楽」「新堂本兄弟」の強力コンテンツ群で他局を圧倒、お昼は「笑っていいとも!」「ライオンのごきげんよう」が皆様に愛され続けていることもバラエティ制作力の強さを裏付けています。

クイズ!ヘキサゴンII



Life Information

情報

日々のニュースを多角的視点から検証し、分かりやすく伝える朝の情報番組「とくダネ!」は引き続き好調でお茶の間の強い支持を獲得、月間平均視聴率は80ヶ月連続1位となっています。“日本の朝の顔”「めざましテレビ」は若者のトレンドの牽引役であり、好視聴率をキープ、学校や職場で話題的となっています。また、「めざましどようび」発の映画では、「にゃんこTHE MOVIE 2」のDVDが発売され3ヶ月で4万5千本を突破するなど、4作品が話題を呼んでいます。ドキュメンタリーでは「最強ドクターが救った命と家族の絆SP 3」や「サイエンスSP 人類と食のミステリー」など先端医療や科学分野を扱った番組も送り出し、高い評価を得ています。

News

報道



FNNスーパーニュース

メインの「FNNスーパーニュース」は、夕方のニュース

激戦区で視聴率6年連続トップ獲得が確実な情勢です。また日曜夜に「新報道プレミアA」がスタート。これまでの報道番組にはない斬新なキャスティングと企画で注目を集めています。このほか「ニュースJAPAN」「報道2001」などレギュラー番組も、質の高い内容で視聴者の支持を得ています。取材部門ではマンマーの日本人記者殺害映像、朝青龍のサッカー単独撮影等、社会性の高い映像スクープを連発し、国内外から高い評価を得ました。参院選特別番組では、極めて精度の高い議席予測を伝えるなど、早く正確な報道に徹し、視聴率も民放トップを獲得しました。このほかドキュメンタリー番組では、教育スペシャル「居場所を下さい…2」や金曜プレステージ特別企画「プリンセス・ダイアナ 最期の瞬間」が、長期取材に基づく深みのある内容で反響を呼びました。

CS放送フジテレビ721+739は、「2007 F1 GP」の土日全セッションを全戦生中継、東京ヤクルトスワローズ主催全試合生中継、世界7大陸で行った史上最大規模のライブイベント「ライブ・アース」を22時間衛星生中継しました。オリジナル番組では、ドラマ「GIRL FRIENDS」、「人志松本のすべらない話」のスピノフ企画で「ジュニア原のすべらない話」と「大輔宮川のすべらない話」が次々登場。人気番組「ゲームセンターCX」は、DVD-BOXの売り上げが15万セットを突破。放送と通信の連携を目指すアイドル育成番組「アイドルリング!!!」は、認知度が上がりアイドルユニットの活躍の場が広がっています。

アイドルリング!!!



CS

CS放送

Radio ラジオ

(株)ニッポン放送は、ナイター中継「ショウアップナイター」をはじめ各番組がリスナーの支持を得ました。また、デジタル放送では、日本初のラブソング専門ステーション「スオーノ・ドルチェ」がスタートしました。8月25日には「オールナイトニッポン40周年記念コンサート」を開催し、満員の日本武道館は大いに盛り上がりました。さらに、出版分野では、番組の人気コーナーから生まれた「車のすのパティシエ」の第2弾「母ちゃんダンプ」が発売され、好評を博しました。



「オールナイトニッポン
40周年記念コンサート」

Event イベント

平成19年2月に東京で始まった大好評の「ドラリオ」は、地方公演を経て、再び東京で上演されます。他にも「チューリヒ歌劇場」の初来日公演やバレエ界の至宝フェリの引退公演「エトワール達の花束」などが高い評価を得ました。コンサートでは「ビヨンセ日本公演」、堂本剛の「ENDLICHERI」や「Mr.Children」「CHAGE&ASKA」など、充実のラインナップでした。スポーツイベントでは「フジサンケイクラシック」が、石川遼選手の参戦で沸きました。また今年で5年目を迎えた「ザ・冒険王2007」は、過去最高水準の動員となりました。



チューリヒ歌劇場日本公演「ばらの騎士」

Movie 映画

4月に松竹で公開した「ゲゲゲの鬼太郎」は、フジテレビで40年間に何度もアニメ化された超人気キャラクター初の実写映画化で、子供を中心に興行収入23億円の大ヒットとなりました。5月公開の「眉山」は、主演松嶋菜々子の復帰作として話題を呼びました。原作は「解夏」などのヒットを生んださだまさし氏で、母子の感動ストーリーで興行収入12億円の佳作となりました。7月には、ドラマが大ヒットした「西遊記」の映画版が邦画としては過去最大の規模で公開。主演の香取慎吾を含めキャストはドラマと同一で、中国ロケなど映画ならではの圧倒的スケール感で興行収入45億円と、夏休み邦画実写映画中1位の大ヒットとなりました。



「ゲゲゲの鬼太郎」

Rights Business ライツビジネス

映像ソフト事業は引き続き好調です。作品別では「ドラゴンボール」単巻シリーズが19億円売り上げたほか、ドラマ「のだめカンタービレ」「Dr. コトー診療所2006」、バラエティ「ドリフ大爆笑」など各ジャンルでバランスよく多くのヒット作品が生まれました。

番組等関連商品では、映画「西遊記」、「HERO」のグッズ売上が好調なほか、バラエティ番組「めっちゃイケてるッ!」と「はねるのトビら」発の冒険王アトラクション、「めっちゃバケてるッ!」「100円ショップ・ダイタイソー」などが人気を呼び、グッズも好調に売り上げました。



お台場冒険王「めっちゃバケてるッ!」

Direct Marketing

通信販売事業



「ダーマ」

(株)ディノスのテレビ通販事業は苦戦が続きましたが、4月のフジテレビフラワーセンターとの合併に伴い、生花通販事業は既存事業との相乗効果を引出せる展開を図ってまいります。インターネット事業は前年同期比122%と引続き好調に推移しています。主力のカタログ事業では、大人の女性をターゲットとしたファッションカタログ「ダーマ」が大きく数字を伸ばしました。好調なファッション事業では、今後、新規カタログを積極的に投入してまいります。昨年10月に開設した物流センターは順調に稼動しており、配送品質向上に寄与しています。



新井 満 「千の風になって」

(株)フジパシフィック音楽出版は、楽曲管理する新井満訳詞・作曲の「千の風になって」が、秋川雅史のCDミリオンセラーにつながり、売り上げに貢献しました。また、携帯電話ビジネスの定着によりAqua Timez「決意の朝に」、絢香「REAL VOICE」などの楽曲が音楽配信で大ヒットとなりました。

(株)ポニーキャニオンは、音楽部門では、KREVAのアルバム「よろしくお願ひします」、映像部門では、映画「アンフェア the movie」やDVD-BOX「ドリフ大爆笑」が好調でした。

Video & Music

映像音楽事業

Other 其他事業

Quaras

株式会社クオラス

平成19年10月1日に(株)富士アドシステム、(株)ビッグショット、(株)フジサンケイアドワーク、(株)ティーコムコーポレーションの4社が合併統合しフジテレビ連結子会社として新たな広告会社「(株)クオラス」が誕生しました。新社名「Quaras」は、Quality (品質)とrascal (わんぱく小僧)を組み合わせた造語です。「すべての仕事にクオリティを追求しながら、果敢に挑戦し、ユニークなアイデアを提案してゆく情報ビジネスイノベーター」を目指します。広告業界も大きな変革の時を迎えようとしています。エンタテインメント、金融広告、コンテンツ事業、PRなどの強みを生かしながら、さらなる体制の強化とソリューション力の向上により、クライアントオリエンテッドを基点としたサービスの提供ができる次世代型の広告会社です。

中間連結貸借対照表 (単位：百万円)			
	当中間連結 会計期間末 平成19年9月30日現在	前中間連結 会計期間末 平成18年9月30日現在	前連結 会計年度末 平成19年3月31日現在
資産の部			
1 流動資産	263,854	269,163	283,029
2 固定資産	431,776	426,061	448,467
有形固定資産	181,668	164,717	179,893
無形固定資産	47,671	50,712	53,881
投資その他の資産	202,436	210,632	214,691
資産合計	695,631	695,225	731,496
負債の部			
3 流動負債	128,613	117,083	150,545
4 固定負債	103,580	110,965	111,364
負債合計	232,193	228,048	261,909
純資産の部			
株主資本	449,148	440,662	445,723
資本金	146,200	146,200	146,200
資本剰余金	173,664	173,664	173,664
利益剰余金	144,788	136,302	141,364
自己株式	△ 15,505	△ 15,505	△ 15,505
評価・換算差額等	8,838	17,487	17,217
その他有価証券評価差額金	8,647	18,081	17,448
土地再評価差額金	△ 457	△ 446	△ 454
為替換算調整勘定	648	△ 147	223
少数株主持分	5,450	9,027	6,645
純資産合計	463,437	467,177	469,586
負債・純資産合計	695,631	695,225	731,496

POINT

1 流動資産

有価証券が減少したことなどにより、前期末比191億7500万円の減少となりました。

2 固定資産

連結子会社の売却による除外などにより無形固定資産が減少したことや、投資有価証券の時価評価差益が減少し投資その他の資産が減少したことなどにより前期末比166億900万円の減少となりました。

3 流動負債

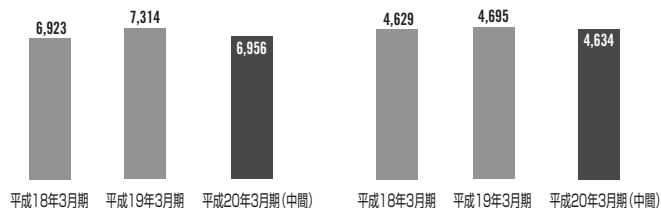
未払法人税等の減少や未払金の減少などにより、前期末比219億3100万円の減少となりました。

4 固定負債

投資有価証券の時価評価差益の減少に伴う繰延税金負債の減少などにより、前期末比77億8300万円の減少となりました。

総資産 (億円)

純資産 (億円)



中間連結損益計算書 (単位: 百万円)

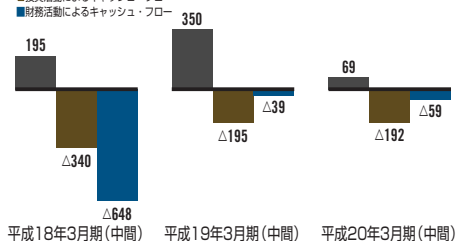
	当中間連結 会計期間 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	前中間連結 会計期間 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	前連結 会計年度 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
売上高	281,697	288,976	582,660
売上原価	193,700	185,458	379,444
売上総利益	87,997	103,518	203,215
販売費及び一般管理費	80,615	79,374	160,889
営業利益	7,381	24,144	42,325
営業外収益	3,763	3,993	7,473
営業外費用	2,206	1,911	3,803
経常利益	8,938	26,225	45,995
特別利益	9,531	262	230
特別損失	664	300	803
税金等調整前中間(当期)純利益	17,804	26,187	45,422
法人税、住民税及び事業税	6,338	12,456	20,858
法人税等調整額	650	△1,842	△1,036
少数株主利益	351	385	753
中間(当期)純利益	10,463	15,187	24,846

中間連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)

	当中間連結 会計期間 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	前中間連結 会計期間 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	前連結 会計年度 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,973	35,032	60,718
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,201	△19,517	△18,206
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,943	△3,932	△9,013
現金及び現金同等物に係る換算差額	121	△31	18
現金及び現金同等物の増減額	△18,049	11,551	33,517
現金及び現金同等物の期首残高	104,324	71,163	71,163
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△356	△356
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	86,275	82,358	104,324

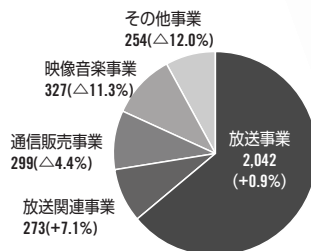
キャッシュ・フロー (億円)

■営業活動によるキャッシュ・フロー
■投資活動によるキャッシュ・フロー
■財務活動によるキャッシュ・フロー



セグメント別売上高 (億円)

※ () は前中間期比



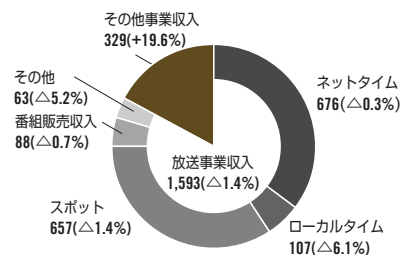
中間貸借対照表 (単位：百万円)

	当 中 間 会 計 期 間 末	前 中 間 会 計 期 間 末	前 事 業 年 度 末
	平成19年9月30日現在	平成18年9月30日現在	平成19年3月31日現在
資産の部			
流動資産	143,525	162,789	171,624
固定資産	437,005	417,789	442,666
有形固定資産	159,288	142,833	158,542
無形固定資産	32,760	31,569	32,542
投資その他の資産	244,957	243,386	251,581
資産合計	580,531	580,579	614,290
負債の部			
流動負債	82,401	71,042	100,643
固定負債	78,035	83,292	83,963
負債合計	160,436	154,335	184,607
純資産の部			
株主資本	412,431	409,733	413,682
資本金	146,200	146,200	146,200
資本剰余金	173,664	173,664	173,664
利益剰余金	108,071	105,373	109,322
自己株式	△15,505	△15,505	△15,505
評価・換算差額等	7,663	16,510	16,000
その他有価証券評価差額金	7,663	16,510	16,000
純資産合計	420,095	426,244	429,683
負債・純資産合計	580,531	580,579	614,290

中間損益計算書 (単位：百万円)

	当 中 間 会 計 期 間	前 中 間 会 計 期 間	前 事 業 年 度
	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
売上高	192,304	189,143	377,875
売上原価	135,989	121,917	245,975
売上総利益	56,315	67,225	131,900
販売費及び一般管理費	48,851	47,958	96,606
営業利益	7,464	19,267	35,294
営業外収益	3,466	3,622	5,366
営業外費用	1,733	1,218	2,495
経常利益	9,197	21,671	38,165
特別利益	612	1,691	1,677
特別損失	539	92	462
税引前中間(当期)純利益	9,270	23,271	39,380
法人税、住民税及び事業税	3,940	9,688	16,310
法人税等調整額	△327	△1,766	△833
中間(当期)純利益	5,657	15,349	23,904

売上高(個別)の内訳 (億円)



※ () は前中間期比

まじめ、はじめました。

フジテレビらしいCSR活動が本格化

平成18年6月に、放送業界としては初のCSR推進室を新設して、一年半が経ちました。放送事業者として、公共的使命・社会的責任を認識し、視聴者の信頼に応える質の高いコンテンツを社会に提供するだけでなく、環境活動や社会貢献活動の面でも全社を挙げて取り組んでいく基礎が出来つつあると自負しています。

本年7月には、CSR活動の社内外への普及・理解のためにオフィシャルサイト「CSR まじめ、はじめました。」を開設したほか、環境問題に関する定期的な社内勉強会を開催するなど、メディア企業の社会的責任を果たすべく、今後もフジテレビらしいCSR活動を幅広く実践していきたいと考えています。



環境にも配慮した「ザ・冒険王2007」

「ザ・冒険王2007」会場では、「自サイクルサイン」を設置して、ご来場の皆様にもリサイクルのためのゴミ分別にご協力いただきました。「自サイクル」とは、社会のため地球のための活動は、自分達のためでもあるという思いを込めたフジテレビの造語です。



湾岸スタジオに「自然エネルギー照明」8基を設置

地球環境に配慮した湾岸スタジオのシンボルとして、8基の「自然エネルギー利用の照明」を設置しました。風力と太陽光を利用して夜間照明電力を補うものです。このスタジオを訪れる方々が、フジテレビキャラクター「ラフ君」と一緒に地球環境について考えてくださることを願っています。



CSRオフィシャルサイトを開設 !!

皆様にフジテレビのCSR活動をお知らせするとともに、社内でのCSR活動に対する理解を深めています。また、このサイトはバリアフリー対応です。視覚障害者の方々がリーディングマシーンで聞くことを想定しているほか、弱視の方々にも読みやすいように色使いを工夫し、文字の大きさの変更も可能にしています。



www.fujitv.co.jp/csr/

■フジテレビグループ

主要な会社	事業内容
-------	------

放送事業（テレビ放送事業、ラジオ放送事業）

当社	テレビ放送
(株)ニッポン放送	ラジオ放送

放送関連事業（放送番組の企画制作・技術・中継等）

(株)共同エディット	VTR編集等の請負
(株)共同テレビジョン	テレビ番組、CM、PR映像等の制作
(株)バスク	テレビドラマ・映画等の制作技術請負
(株)八峯テレビ	番組制作技術
(株)バンエイト	放送番組等の企画制作
(株)フジアル	放送番組、イベント催事の美術企画制作
(株)フジクリエイティブコーポレーション	放送番組販売、番組制作等
(株)フジライティング・アンド・テクノロジー	放送舞台等の照明技術
(株)ベイス	番組制作協力、番組およびビデオ制作
FUJISANKEI COMMUNICATIONS INTERNATIONAL, INC.	放送番組等の企画制作、フジサンケイグループの海外業務受託

通信販売事業（通信販売）

(株)ディノス	通信販売業
---------	-------

映像音楽事業（オーディオ・ビデオソフト等の製造販売、音楽著作権管理等）

(株)シンコーミュージック・パブリッシャーズ	音楽著作権の取得、その使用許諾
(株)フジパシフィック音楽出版	楽譜の出版、内外国楽譜・著作権の管理、原盤の企画・制作
任意組合フジ・ミュージックパートナーズ	音楽著作権の取得、その使用許諾
(株)ポニーキャニオン	オーディオ・ビデオソフトの制作販売
(株)ポニーキャニオンエンタープライズ	録画録音用テープ・ディスクの製造販売
FUJIPACIFIC MUSIC(USA), INC.	音楽著作権の取得、その使用許諾
FUJISANKEI CALIFORNIA ENTERTAINMENT, INC.	音楽出版事業への投資等
WINDSWEPT CLASSICS, INC.	音楽出版事業への投資等

その他事業（出版、広告、人材派遣、動産リース、ソフトウェア開発等）

(株)ニッポン放送プロジェクト	リース業
(株)ビッグショット ^(注)	広告代理業、イベント制作
(株)フジサンケイアドワーク ^(注)	広告代理業
(株)フジサンケイ人材センター	人材派遣業、有料職業紹介事業
(株)フジミック	情報サービス業
(株)扶桑社	雑誌・書籍の出版

(注) 平成19年10月1日に(株)ビッグショット及び(株)フジサンケイアドワークは、(株)ティーコムコーポレーション、(株)富士アドシステムと合併いたしました（新会社名：(株)クオラス）。

■フジネットワーク28局

- UHB 北海道文化放送(株)
- MIT (株)岩手めんこいテレビ
(株)仙台放送
- AKT 秋田テレビ(株)
- SAY (株)さくらんぼテレビジョン
- FTV 福島テレビ(株)
(株)フジテレビジョン
- NST (株)新潟総合テレビ
- NBS (株)長野放送
- SUT (株)テレビ静岡
- BBT 富山テレビ放送(株)
- ITC 石川テレビ放送(株)
- FTB 福井テレビジョン放送(株)
- THK 東海テレビ放送(株)
- KTV 関西テレビ放送(株)
- TSK 山陰中央テレビジョン放送(株)
- OHK 岡山放送(株)
- TSS (株)テレビ新広島
- EBC (株)テレビ愛媛
- KSS 高知さんさんテレビ(株)
- TNC (株)テレビ西日本
- STS (株)サガテレビ
- KTN (株)テレビ長崎
- TKU (株)テレビ熊本
- TOS (株)テレビ大分
- UMK (株)テレビ宮崎
- KTS 鹿児島テレビ放送(株)
- OTV 沖縄テレビ放送(株)



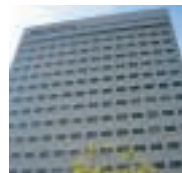
代表取締役社長
山田 良明

共同テレビジョンは、ドラマ、バラエティ、ドキュメンタリーなどのテレビ番組、映画、CM、Webやモバイルコンテンツ、DVDなどの企画制作、イベント実施、アナウンサーマネージメントまで幅広い分野で活動している総合制作会社です。

技術部門でも、常時70班を擁する日本最大のENG取材チームのほか、ハイビジョン中継車をはじめとする高度な技術設備、ビデオ編集・MAなど40室に及ぶポストプロダクション機能

を持ち、テレビ番組制作、スポーツやコンサート中継などあらゆる技術ニーズにお応えしています。

「クリエイティブマインド」を備えたクリエイター達の集団である当社は、これからも激しく変化するメディア環境に柔軟に対応しながら、世の中に夢と感動を与えられるようなソフト作り邁進し、総合制作会社としての存在価値をさらに高めてまいります。



■ Corporate Profile | 事業内容

■ 数々の話題・ヒット作品の制作

ドラマ→「暴れん坊ママ」「スワンの馬鹿」「花ざかりの君たちへ～イケメン♂パラダイス～」「花嫁とパパ」などの連続ドラマから「世にも奇妙な物語」「はだしのゲン」「ソウの花子」「アテンションプリーズ」「アンフェア」などのスペシャルドラマの制作。

情報・バラエティ番組→「脳内エステIQサプリ」「ビューティーコロシアム」「食いしん坊!万才」など多彩な番組制作。

映画→「電車男」「県庁の星」「子ぎつねヘレン」「アンフェア」「ラストラブ」「椿山課長の七日間」「キサラギ」など劇場用映画の製作。

■ あらゆる映像ソフトの制作

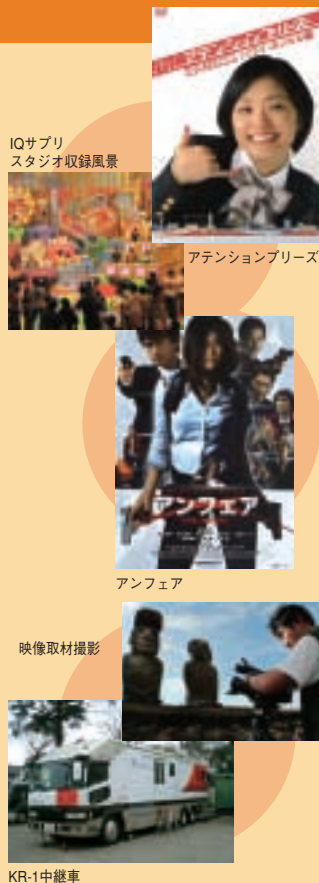
WEBコンテンツ、モバイルコンテンツ、DVDの企画制作コーディネート業務。CM、官公庁のVP（ビデオ・パッケージ）、イベント用VPなど、あらゆる映像ソフトの制作開発。

■ アナウンサーのマネージメント

八木亜希子、小島奈津子、迫文代、城ヶ崎祐子、安藤幸代、滝川クリステルなどが所属。テレビ番組やイベントの司会、レポート、ナレーション等のマネージメント業務全般。

■ 信頼と充実の技術部門

HDカメラ等を駆使したニュース、情報、ドキュメンタリー、バラエティ、ドラマなどの各番組取材やCM、VPの撮影。インターネットを活用した海外での取材。「SMAP×SMAP」などでのスタジオ技術。HD中継車を使用したプロ野球、サッカー、舞台、コンサート等の中継・収録業務。最新の機器を駆使した編集。音効の仕上げ業務。



IQサプリ
スタジオ収録風景

アテンションプリーズ

アンフェア

映像取材撮影

KR-1中継車

■ Corporate Data | 会社概要

商号	株式会社共同テレビジョン
所在地	【本社】〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10 浜離宮パークサイドプレイス11F・12F
設立	1958年7月28日
資本金	1億5千万円
売上高	182億7千万円（2006年度）
従業員数	165名
分室	フジテレビジョン分室、トレードピアお台場分室

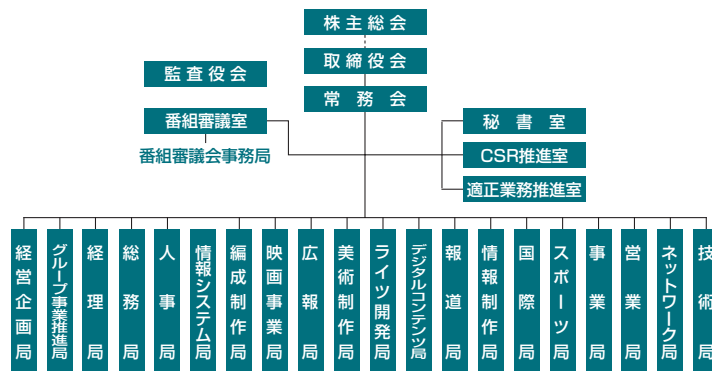
■ Corporate History | 会社沿革

1958年	(株)共同テレビジョンニュース創立。
1959年	共同テレビジョン・フジテレビジョン報道関係者相互派遣。映画「皇太子ご成婚」を制作、各局、新聞社、海外90ヶ所に配信。
1960年	本社を新宿区フジテレビジョン内に移転。
1967年	報道部門をフジテレビジョンへ移管。
1970年	「(株)共同テレビジョン」と社名変更。
1971年	関連子会社「(株)バンエイト」設立。
1981年	関連子会社「(株)共同エディット」設立。
1982年	本社を千代田区三番町に移転。(株)日本VTRセンターと合併し、制作・技術会社としての体制が整う。
1986年	従来の情報番組・ドキュメンタリーに加え、本格的にドラマ、ショウバラエティの制作を開始。
1987年	世界3大CMコンクールの国際放送広告賞、クリオ賞、カンヌ国際広告映画祭で優秀賞を受賞。
1990年	関連子会社「(株)ベイス」設立。
1997年	フジテレビジョン移転に伴い、フジテレビジョン本ビル内およびお台場フロンティアビル内に分室を設置。
2002年	本社を東京都中央区築地 浜離宮パークサイドプレイスに移転。
2004年	(株)バスクを関連子会社とする。
2006年	お台場フロンティアビル内の分室をトレードピアお台場内に移転。

▶ 会社概要

商号	株式会社フジテレビジョン Fuji Television Network, Inc.
設立	昭和32年11月18日
放送開始	昭和34年3月1日
決算期	3月31日
資本金	1,462億35万円
従業員数	1,445名
事業所	
本社	〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号 03-5500-8888 (大代表)
湾岸スタジオ	〒137-8691 東京都江東区青海二丁目36番
送信所	〒105-0011 東京都港区芝公園四丁目2番8号 東京タワー内
関西支社	〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目4番4号 アクア堂島東館 (EAST17階)
名古屋支社	〒461-0005 名古屋市東区東桜一丁目14番25号 テレビア13階
横浜支局	〒231-0005 横浜市中区本町二丁目22番地 日本生命横浜本町ビル
前橋支局	〒371-0026 前橋市大手町二丁目6番17号 住友生命前橋ビル8階
海外支局・事務所	ニューヨーク、ワシントン、ロサンゼルス、ロンドン、パリ、ベルリン、カイロ、モスクワ、北京、ソウル、バンコク、クアラルンプール、ローマ事務所

▶ 組織図



▶ 役員

代表取締役会長	日 枝 久
代表取締役社長	豊 田 皓
取締役副社長	横 井 亮 介
専務取締役	太 田 英 昭
常務取締役	嘉 納 修 治
常務取締役	小 櫃 真 佐 己
常務取締役	内 堀 眞 澄
常務取締役	飯 島 一 暢
常務取締役	堀 口 壽 一
常務取締役	瀬 田 宏
取締役	久 保 田 榮 一
取締役	小 林 豊
取締役	遠 藤 龍 之 介
取締役	鈴 木 克 明
取締役	松 岡 功
取締役	佐 藤 重 喜
取締役	石 黒 大 山
取締役	出 馬 迪 男
取締役	別 府 隆 文
取締役	清 原 武 彦
常勤監査役	尾 上 規 喜
常勤監査役	近 藤 俊 一 郎
常勤監査役	伊 藤 八 朗
監査役	茂 木 友 三 郎
監査役	南 直 哉

▶ 株式の状況

発行可能株式総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,364,298株
株主数	69,956名

(注) 株式数および株主数は自己株式を含んでおります。

▶ 大株主

株主名	持株数 (株)	比率 (%)
東宝株式会社	183,221	7.75
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	111,438	4.71
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	108,657	4.60
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505025	83,881	3.55
株式会社文化放送	77,920	3.30
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	77,000	3.26
エイチエスピーシー バンク ピーエルシー クライアント ノンタックス トリーティ	54,866	2.32
関西テレビ放送株式会社	54,461	2.30
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・株式会社電通口)	46,500	1.97
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	42,258	1.79

(注) 上記のほか当社所有の自己株式61,202株、証券保管振替機構名義の株式148,032株があります。

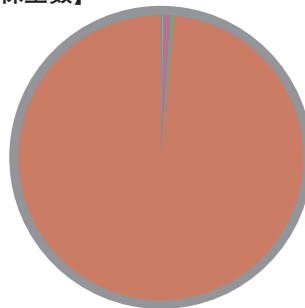
お知らせ
フジテレビのHP上に「IR情報」が掲載されています。最新のIRニュースや決算情報などがご覧頂けます。

フジテレビHP→
企業関連コンテンツ「IR情報」
<http://www.fujitv.co.jp/>



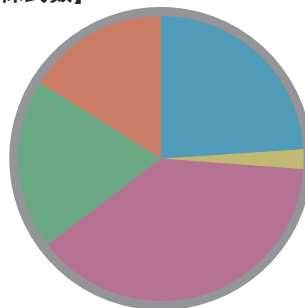
▶ 所有者別株式分布状況

【株主数】



■政府及び地方公共団体 1名 (0.00%)
 ■金融機関 148名 (0.21%)
 ■証券会社 48名 (0.07%)
 ■国内法人 586名 (0.84%)
 ■外国法人等 248名 (0.35%)
 ■個人その他 68,925名 (98.53%)

【株式数】



■政府及び地方公共団体 1株 (0.00%)
 ■金融機関 565,659株 (23.93%)
 ■証券会社 53,237株 (2.25%)
 ■国内法人 909,715株 (38.48%)
 ■外国法人等 454,771株 (19.23%)
 ■個人その他 380,915株 (16.11%)

(注) 「国内法人」には証券保管振替機構(148,032株)が、「個人その他」には自己株式(61,202株)がそれぞれ含まれております。

株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
剰余金の配当	決算期における株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者にお支払いいたします。
中間配当	取締役会の決議により、中間配当を実施する場合は、毎年9月30日における株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者にお支払いいたします。
外国人等の株主名簿への記載・記録の制限等	当社は、放送法で定める外国人等（①日本の国籍を有しない人、②外国政府またはその代表者、③外国の法人または団体、④「①から③までに掲げる者」により直接に占められる議決権の割合が総務省令で定める割合以上である法人または団体）の有する議決権について、①から③までに掲げる者により直接に占められる議決権の割合とこれらの者により④に掲げる者を通じて間接に占められる議決権の割合として総務省令で定める割合とを合計した割合が議決権の20%以上となる場合には、電波法の規定により、放送免許が取り消されることとなります。そのため、このような状態に至るときには、放送法第52条の8第1項および第2項の規定に基づき、外国人等からの株式の名義書換請求等による株主名簿（実質株主名簿を含む。）への記載・記録を拒否し、または、同条第3項の規定に基づき、外国人等の議決権行使を制限することができるかとされています。 なお、当社は、外国人等の有する議決権数の議決権総数に占める割合が15%以上となった場合には、放送法第52条の8第4項および放送法施行規則第17条の3の5の規定により、6か月ごとに公告を行います。
株式の名義書換株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 （お問い合わせ先）	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324（フリーダイヤル）
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
公告掲載紙	産業経済新聞

